

Self-reported adherence after overnight switching from immediate- to extended-release pramipexole in Parkinson's disease

Mutsumi Iijima, Mikio Osawa, Kenji Maruyama, Shinichiro Uchiyama, Kazuo Kitagawa

Advances in parkinson's Disease, 2015;4:13-19

Parkinson病 (PD) 患者では、病初期から多剤併用の治療が行われることがあり、病期の進行に伴い内服薬の種類や量が増え内服時間が煩雑になり“時間通りに服薬が出来ない”、すなわち時間アドヒアランスが低下するとされている。PDにおいてプラミペキソール (PPX) 速放錠から1日1回内服のPPX徐放錠への切り替えによる時間アドヒアランスへの影響を検討した。PD35例 (PPX単剤10例、他の抗PD薬併用25例) を対象とし、PPXは速放錠を漸減せず即時に徐放錠に切り替えた。切り替え1カ月以後に、時間アドヒアランスの改善および服薬負担の軽減について、visual Analog Scale (VAS) (かわらない 0~良くなった 10点) 式の質問により検討し、運動機能はUPDRSパートIIIにより評価した。VAS得点は、時間アドヒアランス改善が 8.1 ± 0.5 (平均 \pm SE) 点、服薬負担の軽減が 7.6 ± 0.6 点で、VAS得点と服薬種類数との間に有意な負の相関 ($\rho = -0.43$, $p=0.01$) が認められた。変更後のUPDRS パートIIIは有意 ($p < 0.01$) に改善した。切り替えの脱落は1例のみであった。PPX速放錠から1日1回服用の徐放錠への切り替えは安全で、患者の服薬負担の軽減と時間アドヒアランスの改善により、運動機能の改善をもたらした。

